

GLOBAL VOYAGE

[グローバル ヴォヤージュ]

PEACE BOAT

2023

Winter

ア
ロ
ハ
!
ハ
ワ
イ

第二特集

ピースボートと世界遺産の魅力

「水先案内人」久保 美智代さん

〔発行〕(株)ジャングレイス



Hawaii's 4 Islands

楽園をまるごと楽しもう

アロハ!ハワイ

大小100以上の島々からなるハワイには6つの主要な島がある。そのうちピースボートクルーズで寄港するのはオアフ島、ハワイ島、マウイ島、カウアイ島。抜けるように青い空、白いビーチ、そして燦々と降り注ぐ太陽の光。開放感に満ちた景色と空気が歓迎してくれる。魅力的な自然やアクティビティとともに、ハワイの歴史や文化にふれて旅をいっそう豊かなものへ。アロハ!ハワイ。太平洋の真ん中の南国を満喫しよう。



Honolulu/Oahu ★ Hilo/Hawaii ★ Kāhului/Maui ★ Nawiliwili/Kauai

GLOBAL VOYAGE
2023 Winter

CONTENTS

特集

楽園をまるごと楽しもう

アロハ!ハワイ P3

自然が生み出したパラダイスへ P4

ホノルル[オアフ島]

ハワイの経済、文化、そして観光の中心地 P6

ヒロ[ハワイ島]

郊外の雄大な自然が大きな見どころ P8

カフルイ[マウイ島]

絶景の渓谷から澄み渡る海まで満喫 P9

ナウィリウィリ[カウアイ島]

ハワイで最も歴史ある島の遺跡と自然 P10

水先案内人インタビュー

サンディーさん P11

旅の思い出をいつまでも

世界のお土産・手工芸品 P12

第二特集

水先案内人が語る

ピースボートと世界遺産の魅力 P14

久保 美智代さん

PEACE BOAT ACTIVITIES P18

表紙の写真

オアフ島のティキ。木彫りの像や石像など、神の像をティキという。古代ポリネシア時代に家などで崇められ、現在はハワイの歴史的な神のシンボルになっている。



ニイハウ島

カウアイ島

ナウイリウリ

オアフ島

ホノルル

モロカイ島

カフルイ

ラナイ島

マウイ島

カホオラヴェ島

ハワイ島

ヒロ

Hawaiian Islands

Hawaii

自然が生み出したパラダイスへ

太平洋の真ん中に位置するハワイ諸島。美しいビーチと景観により、リゾート地として多くの観光客を惹きつけているが、古来、王国が生まれ変遷を遂げてきた歴史におけるカルチャースポットも魅力的だ。また、ここにしかないダイナミックな自然にも見どころが多い。



ハワイの挨拶、といえば多くの人が「Aloha（アロハ）」を思い浮かべるだろう。「こんにちは」を意味するが、それだけではなく、「ありがとう」や「愛してる」といったさまざまな感情を表す言葉であり、さらに掘りさげると優しさや謙虚さ、調和といった意味が込められているそう。素敵な響きをもつ「アロハ」の挨拶で、ハワイと友だちになる。

ハワイの歴史は約1500年前、無人のハワイ島にポリネシア人が移住したことから始まる。19世紀に入りカメハメハがハワイ諸島を統一してハワイ王国が誕生。その後、アメリカからプロテスタントの宣教師などが移住して西洋の影響が拡大。1898年ハワイはアメリカの属領となった。1959年にはハワイ州としてアメリカ50番目の州となり今日に至る。20世紀には日本人をはじめ各国からの移民が増え、それが現在の多様な人種構成につながっている。

西洋の影響といえばハワイ音楽もそのひとつ。移民が持ち込んだギターや賛美歌が古来の音楽と融合した。ウクレレもポルトガルから持ち込まれたものといわれている。伝統的なフラダンスは神に捧げる踊りで、モロカイ島の洞窟で女神ラカが踊った踊りがフラの起源といわれている。ハワイアンミュージック、フラとともに観光客に人気で、年間を通して体験や鑑賞ができる。

その観光客の数は年間600万人超。1年中温暖で美しいビーチをはじめマリネジャーが人気のほかジャングルや溪谷、火山や滝など豊かな自然も唯一無二で、その素晴らしいさを堪能できるツアーも多い。またハワイには多くの神話、伝説があり島のあちこちにその舞台が点在している。各島によって自然や史跡にも特徴があるのでその違いも楽しみたい。



ご飯にハンバーグと目玉焼きを乗せたハワイのソウルフード「ロコモコ丼」。



3: 標高232mの「ダイヤモンドヘッド」の展望台から市街を一望できる。4: 「この木なんの木」のCMで有名な「モアナルア公園」。カメハメハ王家の所有地だった場所が公園になっている。



5: オキナワンとの交流ではサーターアンダギーがふるまわれこともある。6: ハワイ文化にまつわる展示が充実している「ビジョップ博物館」。

体験ツアーでは、沖縄系移民の方との交流の機会を予定している。19世紀半ばから約100年にわたり多くの日系移民が海を渡った。従事していたのはサトウキビ栽培で、厳しい環境のもとで働いていたという。当時の暮らしを知る施設「プランテーションビレッジ」を訪れ、沖縄出身の日系移民（通称…オキナワンの方々からお話を聞く。ハワイの人だけでなく沖縄県以外の日系移民からも別の民族だとして差別を受けながらも、苦しい日々を乗り越え、自分たちのコミュニティを築いてきた。現地を訪れることで「オキナワン」というアイデンティティを育んだ歴史を知ることができるだろう。

ハワイのオキナワンに会いに行く



1: ハワイ初のオリンピック選手で競泳で金メダルに輝いた英雄を称える「デューク・カハナモク像」。2: ワイキキビーチからのサンセットの美しさに多くの人が魅了される。



8つあるビーチそれぞれに特徴があり、楽しみ方も異なる「ワイキキビーチ」。

初代カメハメハ大王の像。金箔の豪華な衣装をまとい、貴族十分のたたずまい。

Honolulu

ホノルル [オアフ島]

ホノルルのランドマーク的な存在で市街地からのアクセスも良好な「ダイヤモンドヘッド」からは、ワイキキビーチが一望でき、青く広い海と空を眺めながら爽快なひとときを味わえる。ワイキキビーチは3kmにわたる8つのビーチが続き、常に観光客で賑わっている。近隣にはカフェやレストランも多くグルメを楽しむこともできる。お土産探しにはビーチから近く、ハワイらしい雰囲気のある「ロイヤルハワイアンセンター」や、300以上の店舗数がありフラダンスショーなども開催されている「アラモアナショッピングセンター」がおすすすめ。ダウンタウンにある「イオラニ宮殿」はハワイ王国の栄華を物語る豪華な建物で、見学が可能。日本語の案内によるツアーもあり、ハワイ王国の歴史や展示物について知ることができる。宮殿の向かいには、かつてハワイ諸島を統一した「カメハメハ大王像」が威風堂々たる姿で建ち、観光客の人気を集めている。近隣の「ホノルル市庁舎」や「ハワイ州議事堂」も観光スポットとして人気がある。映画『ジュラシック・ワールド』の撮影にも使われた「マノア滝」は高さが50mあり、周囲の大自然とあわせてアドベンチャー気分を楽しめる。

ハワイの経済、文化、そして観光の中心地

ホノルルはハワイの州都。ハワイの島のなかでも最も人口が多いのがホノルルのあるオアフ島だ。島は別名「集いの島」とも呼ばれており、文化やエンターテインメントにふれることができる場所、機会ともに多く、観光スポットも多彩だ。



Kahului

カフルイ [マウイ島]



絶景の溪谷から澄み渡る海まで満喫

ハワイ島に次いで2番目に大きいマウイ島は、世界屈指の美しいビーチやホエールウォッチングが人気。カフルイは島の玄関口で、大きな港をもつ。またこの地はカメハメハ王がハワイ諸島統一に向けて第一歩を踏み出した場所としても知られている。

マウイ島では赤茶色の大地が広がる壮観な景色も見ることができる。



作家マーク・トウェインが「太平洋のヨセミテ」といった溪谷をもつ「イアオ溪谷州立公園」。



海水浴やシュノーケリングにも適している「カハナビーチ」。



土産品としてさまざまなフラダンス人形が販売されている。ハワイで人気のローカルフード「ガーリックシュリンプ」。お店によって個性ある味を楽しめる。

「イアオ溪谷州立公園」はハワイアンにとって神聖であった溪谷がある公園で、かつてカメハメハ王とマウイ王が交戦した場所でもある。大きく突出した山「イアオニードル」は最大の見どころだ。ハワイ最大規模の水族館「マウイ・オーシャン・センター」には世界有数のサンゴ礁やウミガメ、ハワイ固有の海洋生物が展示されている。「マウイ・トロピカル・プランテーション」はパイナップルをはじめさまざまな農産物を栽培しており、販売も行っている。売場面積も広く特産品や工芸品なども扱っている。お土産選びも楽しい。島で最も高いハレアカラ山のあり「ハレアカラ国立公園」は広大な敷地のなかで壮大な自然を満喫できる。映画『2001年宇宙の旅』

の撮影地にもなった。また多くの絶滅危惧種が生息していることでも知られている。海へ行くなら「カハナビーチ」へ。きれいに整備された遊泳専用エリアもあって、のんびり過ごすこともできる。



ラハイナ駅に展示される「シュガーケイン・トレイン」は、かつてサトウキビを運んでいた蒸気機関車。

Hilo

ヒロ [ハワイ島]



郊外の雄大な自然が大きな見どころ

ハワイのほかの島の面積を合わせてもこの島には及ばない「ビッグアイランド」と呼ばれるハワイ島。その郡庁所在地で、ハワイではホノルルに次ぐ第二の都市がヒロだ。素朴な雰囲気に惹かれ多くの観光客が訪れる。

落差24m、滝つぼは直径30mあるダイナミックな「レインボー滝」。



1: 活火山キラウエア火山を中心とした「ハワイ火山国立公園」。パワースポットのひとつとされている。2: カメハメハ一世が生まれ育ったハワイ島にも銅像が建っている。3: 海外最大級の日本庭園がある「リリウオカラニ公園」。



ヒロ湾に面するベイフロントは、築100年以上のノスタルジックな建物がギャラリ、ショップ、レストランなどとして活用され、散策する

のが楽しいエリアだ。ダウンタウンの近くでは、虹がかかることで知られるレインボー滝のある「ワイルクリバー州立公園」がおすすすめ。郊外にも見どころは多く、ハワイ最後の王の名にちなんで名付けられた「リリウオカラニ公園」では赤い太鼓橋、石庭、茶室などをしつらえた美しい日本庭園を見ることができ。また「ハワイ火山国立公園」はキラウエア火山とマウナ・ロア火山という2つの火山を擁し、世界遺産にも登録されている。雄大な自然が数多くあるのが特徴だが、ハワイは世界有数の天文観測地として知られており「イミロア天文学センター」は世界レベルの科学教育施設で、ハワイの伝統的な航海術の展示をはじめ最新のプラネタリウム、四次元デジタル宇宙シアターで迫力の映像を楽しむことができる。



シーフードを調味料で和えご飯にのせたハワイのローカルフード「ボキ丼」。

ウクレレ専門店もあるので興味があればお土産にもぜひ。





ハワイで最も歴史ある島の遺跡と自然

ハワイ諸島最北に位置するカウアイ島。550万年以上前に海底火山の噴火で誕生した。別名ガーデン・アイランドと称され、太古の自然が残り見どころが多い。数多くの映画のロケ地としても知られている。

島の北東にあり、アナホラのランドマーク的な存在のカラレア山。



1: 緑の山々を背景にした美しい「ハナレイ湾」。2: シダに覆われた巨大な「シダの洞窟」では王族の儀式が行われていた。3: 虹が出現することもある迫力満点のワイレア滝。4: 南国らしく、パイナップルを具材と器に用いる「パイナップルチャーハン」。



カウアイ島で最大の湾「ハナレイ湾」は山々とヤシの木に囲まれた美しい海岸線が広がり、地元の人にも人気のスポット。歴史ある「ハナレイ栈橋」からは透明感のある海中をのぞくことができる。島の北東にあるアナホラビーチからは内陸に向かって丘が続き、その先に「カラレア山」がそびえ立ち、その中央の山は形が似ていることから「キングコングヘッド」と呼ばれている。近頃のワイレアには観光スポットが多く、「ワイラルアパー州立公園」には、かつて王族しか入れなかつ

た聖域「シダの洞窟」があり、結婚式や集会が行われていたとされる。川の南端にある「ワイレア滝」は、世界最大級の降雨量があるワイアレア山に降る雨がワイアレ川に流れ込み、美しいダイナミックな水流をみせている。古代、戦士たちが王に勇気の証を見せるため飛び降りる儀式を行っていたと言われている。このほか島の中心地であるリフエではショッピングセンターでお土産を採ったり博物館で文化遺産にふれることもでき、ビーチでくつろぎのひとときを過ごすのも楽しい。

水先案内人が語る

ピースボートクルーズ体験

フラダンスを通してハワイと深い縁をもつ、水先案内人のサンディーさんにハワイの魅力、ピースボートクルーズの魅力などを伺った。



水先案内人
サンディーさん

日本における女性ボーカリストの先駆者。10代を主にハワイで過ごしフラと出会う。歌手として世界を舞台に活躍し、2001年にサンディーズ・フラスタジオを設立。フラの正統的継承者として2005年にウニキウムフラ(フラ・マスター)のタイトルを受け継ぐ。

Sandii's Hula Studio
<https://hula.sandii.jp/>

海原の向こうに
ハワイが見えてくる感動

ホノルル港に入港するときにアロハタワーが徐々に大きくなって見えてきます。アロハタワーはハワイの歴史を見守ってきたシンボルです。広い海を渡って見えてくるハワイ、あれはクルーズならではのワクワク感があります。同時に150年以上前に日本からハワイへ移住した人たちの気持ちを想像してみてください。不安もあっただろうけど大きな希望があったはずで、その時代に思いを馳せるとロマンを感じますよ。

天然の楽園、ハワイから感じるもの

ハワイを訪れるのがクルーズの最初か最後かによってもとらえ方が違うでしょう。最初に訪れる方には、とても優しいハワイの風をデッキでぜひ感じてほしい。見るもの感じるものを赤ちゃんのような素直な心で受け止めてください。クルーズの最後に訪れる方は、まるで天国のようなハワイが、神様が用意してくれたプレゼントのように思えます。世界をまわって見てきた美しい場所、景色とともに豊かで美しいこの地球や自然を守っていく気持ちが生まれるでしょう。

美しい島を、いつまでも美しく

豊かな自然に恵まれたハワイをたんなる観光地としてとらえずに、いつまでも美しさを守っていく当事者としての姿勢をもつてほしい。たとえば次に訪れる人のために、自分が訪れたときよりも良い状態にしてください。ハワイには「トラッシュボックス(ゴミ箱)」ではなく「マハロ」つまり「ありがとう」と書いてあります。自分が落としたゴミでなくても気づいたら「マハロ」に入れてください。

一つひとつの島に個性的な魅力がある

さてそれぞれの島の魅力についてお話ししましょう。カウアイ島は一番古い島で、いまだに空気の中に神秘が生きているのを感じます。山が険しくそびえ立っていて私は一番好きですね。マウイ島は山も尖っていないし、雰囲気も柔らかいです。ハワイ島は天地創造を見ているようなイメージがあります。火山の女神ペレが踊っているように地球の心臓という感じがします。オアフ島、特にホノルルは私にとってはリビングルームのようです。街中にいけばハワイを感じるすべてが手の届くところにあります。

旅を通して
幸せになり、豊かになっていく

ピースボートクルーズの素晴らしいところ「乗ったもん勝ち」のようなところがある。乗ってみると有形無形の恩恵を受け、財産を得ることが出来ます。世界のさまざまな場所が縁をもらい、仲間が増えていく。旅を通して、幸せに豊かになっていく。フラを踊るのと同じです。気持ち良く自分が解放される旅へ出かけましょう。



ローズマリング
(ノルウェー)

ノルウェーの伝統的なフォークアート。長く厳しい冬に彩りを添えるため、家具や食器などに花や草木をモチーフに描いた。豊かな自然を反映した美しさが魅力で、地域ごとにスタイルが異なる。



トロールの人形
(アイスランド)

北欧で伝承される妖精「トロール」。巨大で怪力というイメージがあるが、トロール人形はおまじない効果があり、髪の毛をなでることで願いがかなう、幸運をもたらすといわれている。

ヴェネチアン・グラス
(イタリア)

ヴェネチアのガラス工芸品。古代ローマ時代からの「吹きガラス技法」をもとに、繊細かつ華麗な技法が生み出されさまざまな形態、機能のガラス作品が作られた。グラス、アークセサリー、花瓶、照明など作品は多様。



トカゲのモザイク
(スペイン)

ガウディの作品の一つ「グエル公園」に置かれたモザイクで作られたトカゲが広く知られるようになり、バルセロナのシンボルの存在としてお土産としても人気になっている。



ダーラホース
(スウェーデン)

スウェーデン、ダーラナ地方の木こりが材木の切れ端でつくったのが始まりといわれる、木彫りの馬。子どもたちのおもちゃとして広まり、ダーラホースは地域の産業へと発展。世界的に知られる民芸品になった。



パピルス画
(エジプト)

約5000年前に開発された世界最古の紙といわれるパピルスにエジプト文明や神々が描かれたもの。エジプト定番のお土産のひとつで、さまざまなシーンから選ぶことができる。

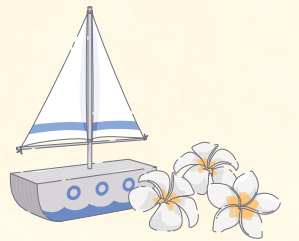


ティキの置物
(ハワイ)

ハワイでは木彫りの像や石の像など、神の像のことを「ティキ」といい、いたるところで目にすることができる。ハワイの四大神を表したものが有名。顔の表情や頭の飾りが異なりそれぞれ意味をもつ。

旅の思い出をいつまでも 世界のお土産・手工芸品

世界の国々を訪ねたときに「思い出に」購入したくなるお土産。自分自身のために、あるいは大切な方に向けて、いつまでも手元に置いたり使えたりするものを選びたい。その参考になるように、世界の個性的なお土産を紹介する。



プラナカン陶器
(シンガポール)

多彩な文化が融合されて生まれたプラナカン文化は、独自のスタイルがあるが、特に鮮やかな色づかいが特徴。かつてお祝いの席で用いられていたとされる陶器は観光客にも大人気。



サンドボトル
(ヨルダン)

中東の国々でみられるお土産の定番。さまざまな形のビンのなかに色を付けた砂を入れ、棒を用いてラクダなどの図柄を描いたもの。ヨルダンには多くの職人がいて、観光地ではその場でデザインしてもらえることもある。



ガロ
(ポルトガル)

ポルトガルを象徴するシンボル。ガロは雄鶏を意味している。現地に伝わる昔話からガロは「幸運を呼ぶ雄鶏」として知られ、ポルトガルの多くの家庭に置物として飾られている。

トルコランプ
(トルコ)

トルコの伝統的なモザイクガラスがあしらわれたランプ。トルコではオスマン帝国時代から親しまれてきた。華やかな柄が特徴で時間が経っても色落ちしない。消灯時にも美しく、インテリアとしても人気が高い。



ククサ
(フィンランド)

フィンランド北部のラップランドに住んでいたサーメ人に伝わる、白樺のコブをくりぬいて作られるマグカップ。丁寧に手作りされたククサは、「贈られた人は幸せになる」という言い伝えがある。



アルパカのぬいぐるみ
(ペルー)

アルパカの赤ちゃんの毛を使って作られている。自然素材のため触り心地が良く、愛くるしい表情も魅力。別売されているニット帽などと組み合わせるとなお楽しい。

アボリジナル・アート
(オーストラリア)

先住民アボリジニの人々により作られるアート作品。独特な色彩、表現方法が世界中から人気を集め、絵画をはじめバッグや財布、アークセサリーなどにも展開されている。



ボンビージャ
(アルゼンチン)

アルゼンチンでマテ茶を飲む際に使用するのが、ひょうたんから作られたマテ器とボンビージャと呼ばれる先端に茶こしが付いた金属製のストロー。マテ茶は美容と健康に良いとされ、日本でも注目されている。

伝統柄の織物
(グアテマラ)

古代マヤの時代から続くグアテマラの織物文化は現代にも引き継がれている。北西部の高原地帯の村々で個性ある織物が作られ続け、デザインモチーフは多彩であり、色や模様の鮮やかさが特徴だ。





水先案内人が語る

ピースボートと世界遺産の魅力

世界中の世界遺産を訪ねる旅を続け、その魅力を発信している久保美智代さん。船内では、ピースボートの旅をより有意義なものへと導いてくれる「水先案内人」としての講座が大人気。そんな久保さんにピースボートクルーズの魅力と、世界各地の寄港地から、訪ねやすく心に残る、おすすめの世界遺産を紹介してもらった。



水先案内人
旅する世界遺産研究家
久保 美智代さん

(株)愛媛朝日テレビ局開設に伴い、アナウンサー第一期生として入社。その後、東京で独立。世界遺産に魅せられて現在まで53カ国414カ所訪問を達成。京都で二人の子どもを育てながら、講演や執筆活動を通じて世界遺産の意義や素晴らしさを伝えている。

最初の印象は、船内の雰囲気ですね。老若男女、国籍もさまざまでしたがとてもピースフルでした。私がテーマにしているのが「平和」で、「世界遺産は心に平和の砦を築くためにある」という考えなのでピースボートとは相性が良かったのかも知れません。水先案内人としての講座以外の時間はデッキを散歩したり海を眺めたり、一般の参加者と同じように楽しみました(笑)。そして夜の星がとても綺麗でした。流れ星は感動的でしたね。

船旅の魅力をどこに感じられましたか

船旅の魅力は日常から解き放たれることですね。そして新たな自分を発見できること。私は普段の生活ではスルーしていたこと、たとえばソーラン節や太極拳、卓球などにチャレンジしました。船上だと「やってみようかな」という気持ちになるのは人目を気にしなくていいし、失敗を怖れないようになるからだと思います。それは私だけでなく、乗客の皆さんは船内のカル



チャースクールなどに積極的に通って趣味や特技の幅を広げていますよね。あとは自分のためだけに使える時間がたっぷりあることと、船旅だと荷物の持ち運びや出入国審査のストレスがなく旅を楽しめます。寄港地に着いたら軽装で観光に行けるなんて、とても素晴らしいことですよ。

その後、お子さまが日本一周のショートクルーズに一人で乗船されたそうですね

それ以前に、長男は小学2年のときに私と一緒にピースボートのショートクルーズを体験していて、中学生になって一人で乗船しました。船内では寝る部屋があつて、食事や食べられてといったことを知っていたから本人はまったく不安なく乗船していましたね。もちろんクルーやスタッフの方が安全面ではフォローしてくださっていますし、寄港地はほとんどが国内です。私も心配はしていませんでしたが、本人はとても楽しんだようです。子どもの一人旅はもちろん親子やお孫さんと一緒にショートクルーズに参加するのもおすすめです。



世界遺産に関する仕事をすることになったのはいつ頃からですか

大学卒業後にアナウンサーになり、独立後にアメリカ横断の旅行から自然の雄大さに惹かれ、それが世界遺産を巡っていくきっかけになりました。30歳くらいのときに、世界遺産の素晴らしさを伝える活動をしていたら、ある大学の先生が面白がつてくれて学園祭の講師で呼ばれたのが、初めての仕事になりました。そしてその先生が「世界遺産ハンター」と名付けてくれたのです。好きな旅の話が仕事になるって、これ



以上のことはありませんよね(笑)。また私は教育学部の出身なので、アナウンサーとしての話すスキルに加えて「素晴らしいものを伝えたい」という志向がうまくシンクロして、世界遺産についての講演や執筆をさせていただくようになりました。

世界遺産の魅力とはどんなところにあるのでしょうか

なかなか一言でいうのは難しいのですが、世界遺産は「多様性の傑作集」だと思います。遺産といってもさまざまな種類があり、歴史も時代も、つ



ドブロブニク

くった人も、生まれた自然環境も違う。だから唯一無二なんです。また世界遺産から学ぶこと、見えてくることも多々あります。たとえばクロアチアのドブロブニクを訪れると「アドリア海の真珠」と称される白い壁、オレンジ色の屋根が連なる美しい街並が迎えてくれます。しかし一方では内戦による銃弾や砲弾の跡といったものが生々しく残っている。歴史を知っていることによつて見え方も感じ方も変わりますよね。世界遺産を深く捉えることで、得るものも大きくなる。だからできるだけ事前に学んでから行くことをおすすめしますし、帰ってきてから学んでもいいと思います。

船旅で訪れる世界遺産の醍醐味とは
どんなところにありますか

寄港地によつてその旅が変化する
ことだと思います。一般的なツ
アーだと参加者全員で一緒にまわつ
て行きますが、長い船旅だとそれぞ
れの寄港地で誰と行動するかは決
まっていない。水先案内人の講座を
聴いて興味をもった人同士が、気が
合つて行動することもあるでしょう
し、たまたまバスで仲良くなつた人
とまわることになるかもしれないな
ど、そのときの状況は変化していき
ます。また最初の頃は海外旅行初
心者だったけれど2カ月も経つと、
中級、上級の旅になっていく。それ
により世界遺産の味わい方というも
のも変わっていきますから、その辺
りが船旅の醍醐味だと思います。

ぜひ行って欲しい、おすすめの
世界遺産をご紹介します

おすすめ、といわれればもうキリ
がありません(笑)。今回は厳選し
て、港に船が着岸し、比較的訪ね
やすい世界遺産をご紹介します。



シンガポール植物園

まずシンガポールからですが、
「シンガポール植物園」です。シンガ
ポールでは唯一の世界遺産で世界の
植物園のなかでもトップクラスの美
しさです。早朝から夜中まで開い
ていて、入園料は無料というのも魅
力。園内にはレストランもありゆっ
くりくつろげます。

次はヨーロッパとアジアの交差点
にある「イスタンブール歴史地域」
です。旧市街のグランドバザールは
4000以上の店が並び、アラジン
の魔法のランプに出てくるような雰
囲気です。そこに迷い込むのもまた
楽しいですよ。またブルーモスクは
必見です。貝殻を重ねたような
ドーム屋根が美しく、モザイク柄の

ステンドグラスとイズニックタイルに
目を奪われることでしょう。

古代ギリシャのシンボルである
「アテネのアクロポリス」も人気で
す。港から出発するツアーもあるし
電車で行く人もいますね。丘を見
上げながら近づいていくと高揚感
が増していきます。ユネスコのマー
クになっているパルテノン神殿は女神
アテナが祀られており、ギリシャ神
話を勉強していくとさらに楽しく
なると思います。また周辺には遺
跡がたくさんありますから、ギリ
シャ時代にタイムスリップしたよう
な感覚になります。

ポルトガルは「リスボンのジェロニ
モス修道院とベレンの塔」も港から
近くにあります。大西洋へ出る際の
出発地点となった大航海時代を感
じさせる街で、「ジェロニモス修道院」
は当時を象徴する記念碑的な建物
です。外観は船のロープなどが彫刻
され、中庭にはカルベラ船の透かし
彫りも見られます。ヴァスコ・ダ・ガ
マの棺が安置されていることでも有名
ですね。川沿いに下ると「ベレンの
塔」があります。河口を守る要塞で
すが「テリジョ川の貴婦人」と呼ば
れるほど優美な姿で建っています。

会えます。あとシステイーナ礼拝堂
の「最後の審判」は中に入ることが
できればぜひ鑑賞してほしいです。

カナダの「ケベック旧市街の歴史
地区」は、ピースボートクルーズでは
紅葉の時期に合わせてツアーが組
まれているようなのでおすすめです。
セントローレンス川を見下ろす
ようにシャトー・フロントナックが
堂々と建つ風景は絵葉書のように
です。赤く色づいたメープル街道を
ゆつくり堪能ください。

オーストラリアの「シドニー・オペ
ラハウス」は船が真横を通過しま
す。シドニー湾のシンボルで、時間帯
や角度によつて美しさが変化しま
す。公園やヨットハーバーなどがあ

り、辺りを散策してもとても気持
ちの良い場所です。

シドニー港と同様に世界三大美
港とも称されるリオデジャネイロ
では「カリオカの景観群」が世界遺
産に登録されています。また、私が
行つてみたい場所であれば、モアイ
で有名な「ラパ・ヌイ国立公園」で
すね。南アフリカのケープタウンな
ら世界でも類のないほど植物の種
類が多い「ケープ植物区保護地域
群」は訪れてみたいですね。414
カ所の世界遺産を巡った私もこれ
ら南半球の世界遺産はまだ訪ねた
ことがないのですが、ピースボート
クルーズなら一度で巡っていけるの
で私も乗船したいですね。



ヴァチカン市国



ケベック旧市街の歴史地区



オペラハウス



ケープ植物区保護地域群

船旅は飛行機と違って、乗船して
から洋上で徐々に非日常へと変わっ
ていきます。とてもナチュラルに旅
に慣れながら新しい世界に入ってい
くので、約3カ月間、素晴らしい体
験をします。世界一周して帰ってき
たら年齢に関係なく人生が変わっ
ていると思います。そのくらいイン
パクトのある船旅ですね。極端にい
えば私は「ピースボートクルーズが
世界遺産だ」、くらいの考えでいま
す。皆さんも乗船を楽しむにして
いてください！



最後にこれから乗船を
予定されている方へ
メッセージをお願いします



ローマ



ベレンの塔



パルテノン神殿



イスタンブール歴史地域

長期化する侵攻 支援の継続を

PBVは2022年3月、6月に続いて10月にもスタッフをルーマニアに派遣。現地の提携団体と支援活動の進捗と調整、避難民からの聞き取りなどを行った。これまで行ってきたウクライナの病院へ医薬品の配布（のべ15カ所の病院を支援）、ルーマニアで暮らす避難民への支援、ウクライナのがん患者とその家族への転院サポート（240人の患者を支援）等の活動の継続を確認するとともに、新たなニーズについても情報収集を実施した。また10月以降のロシア軍のウクライナのインフラ施設への攻撃によって、深刻な電力不足となっていることから新たな支援が検討されている。

スタッフの鈴木郁乃さんは現状を次のように語る。「氷点下のなかヒーターも使えずお湯も出ない状況なの



で、ウクライナ国内で炊き出しを行っている団体への支援を追加します。越冬のための物資配布も検討中です。またこの状況から一時落ち着いていたルーマニアをはじめとした周辺国への避難民の流入が増加することも予測されているため、現地では受け入れ態勢の強化が進んでいます」。

ウクライナ人道支援

ピースボート災害支援センター活動報告

ピースボート災害支援センター(PBV)はロシア軍によるウクライナ侵攻直後から、ウクライナの隣国ルーマニアの複数の提携団体とともに人道支援を続けている。長引く侵攻において現在どのような支援が行われているか、活動内容を報告する。



PBV ピースボート
災害支援センター

【公式サイト】<https://pbv.or.jp/>

2022年 ウクライナ緊急支援募金

ルーマニアとウクライナで活動する複数のNGOとともに多岐にわたる支援活動を実施しています。詳しくはPBVウェブサイト等でご確認ください。

募金方法

- 郵便振替 ●銀行振込 ●クレジットカード
- yahoo!ネット募金 ●携帯料金といっしょに寄付する

お気軽にお問い合わせください

TEL.03-3363-7967 11:00~16:00 土日祝定休



るなかでの対応で、支援のニーズがなくなることが難しい点です。皆さまからお預かりしたご寄付を活用し、今後も現地のニーズに合った支援活動を継続していきます。もう一つ付け加えると、ウクライナには長い間、ピースボートクルーズを支えてきてくれたスタッフが大量にいます。彼らの故郷に一日も早く平和が訪れることを願いながら、これからも支援に向き合っていきたいと思います」。



COP27参加報告

海洋・気候危機のための アフリカユース・プログラムを発表！

ピースボートは緊急の国際問題、気候危機に国際NGOとしてより貢献していくため、第27回国連気候変動会議(COP27)に参加した。今年の会議は11月6日から2週間、エジプトのシャルム・エル・シェイクで開催され、バイデン米大統領、マクロン仏大統領など各国政府トップに加え、各国企業、国際NGOなどが参加し、年々深刻化する気候危機解決のため、真剣な議論が交わされた。

アンバサダー・プログラム」を過去3回にわたり行ってきた。

今回のCOP27においてもさまざまなイベント、記者会見を行い、世界一周クルーズを通じての海洋危機、気候危機への取り組みを紹介。また、他の国際NGOと協力して若者の行動を支援するため、彼らの役割強化、能力開発、ネットワーク構築の必要性を訴えた。

そして、気候危機に取り組む若者を応援しているアフリカヨーロッパ財団(AEF)と世界資源研究所(WRI)の両団体と現地でパートナーシップを締結。「MOTTA IN A I(もったいない)」を世界に広めたノーベル平和賞受賞者ワンガリ・マタイさんの長女で、WRIの代表であるワンジラ・



マタイさんはピースボートへの大きな期待を表明してくれた。

この両団体と協力して、来年はアフリカ各国の若者をクルーズに招き、「オーシャン&クライメイト・アフリカ・ユースアンバサダー・プログラム」を行う予定。船上、寄港地でさまざまな活動に取り組んでもらい、気候危機に直面するアフリカの人々の声を世界に届ける。



船上百景 [旧正月]



船内は赤い提灯をはじめとする旧正月の飾り付けがされ、踊りや京劇などのパフォーマンスが披露される。

出身地域にかかわらず みんなで一緒に祝う

アジア諸地域では旧暦で正月を祝うので、冬のクルーズの場合、ピースボートではお正月は2回やってくる。アジア諸国からの乗船者もいるため、船内は縁起の良い色とされる赤や黄色の飾り付けでいっぱいになる。その準備では飾り物を一緒につくったり、干支の置物をついたり、文化交流できるのも素敵のひとつだ。

干支は日本の十二支と同じだが、一つだけ違うのは「亥」で、日本では猪だが中国や韓国などでは豚になる。旧正月は家族や大切な人とゆっくり過ごすと言われており、船内でもみんなが出身地域にかかわらず一つの家族のように温かな雰囲気でお祝いをする。中国の伝統的な音楽や踊りが披露されたり、モンゴル語のパフォーマンスが披露されるなど、各国の歌や楽器による演奏によって、たくさん笑顔があふれる。



レストランメニューにも伝統的なお祝いのご馳走が登場。



飾り物をつくる有志の乗船者。



「ハワイ島で38年ぶりの大規模噴火」「ウクライナのオデッサでドローン攻撃による大規模停電」。この原稿を書いているときに今号で紹介しているハワイやウクライナのニュースが飛び込んできました。どちらも心配なニュースではありますが、クルーズの関係者やそのご家族は無事だという報告は受けています。

オデッサといえば、ピースボートクルーズで長年船長を務めているキャプテン・アリモフをはじめ多くの乗組員が暮らす街でもあります。現在はオデッサから安全な地域に避難していると聞きますが、同じウクライナ国内から日本へ避難してきたケースもあります。数年前から船上で素晴らしい演奏を披露していたアレックスもその一人です。今は札幌市内にある「ペチカ」というロシア料理店で、船内と同じようにさまざまな楽器を駆使して世界中の音楽をお客様に届けています。そんなアレックスも今年4月以降に出航するピースボートクルーズへの乗船が決まっていますので、船に乗られた際には彼の奏でる優しいさの中にも憂いを帯びた音色に耳を傾けてみてください。旅をするには、やはり平和な状態であればなりません。「旅が平和をつくり、平和が旅を可能にする」という言葉の意味をかみしめながら、スタッフ一同今年も励んでまいります。本年もどうぞよろしくお願いいたします。(N・I)